

# ストップ！ステイグマ

～私たちの人権を守るために～

2020/11/02

京都女子大学学生相談室





# コロナはまだ続きそう…



- 新型コロナウイルス感染症が世界中に広まってから、やがて1年が経とうとしています。まだまだその猛威は続いており、これから寒く乾燥する季節に向かう中で、ふたたび感染拡大が懸念されています。
- このようなニュースを聞くと、不安になり、テンションが下がる、気が塞がる、などありますね。そして、気を付けて感染しないようにしなければと、警戒する気持ちが高まります。
- ここまでは、自然な反応であり、感染予防・感染拡大防止にもつながる有用な心理と言えます。
- そして、ここから道が分かります。正しく恐れて、正しく対処するか？ 闇雲に恐れて、間違った対処をするか？



# 感染するから…



- 感染は、病原体（ウイルス、菌、寄生虫、など）が体内に侵入することで引き起こされます。病原体は、感染源（感染した人・動物・虫など、病原体に汚染された物・食品など）との接触により、体内に侵入してきます。新型コロナウイルスの主な感染源は人（感染者）なので、感染防止のためには、感染者の隔離が必要となったり、感染の有無にかかわらず人同士の接触を減らす工夫が必要になったりします。
- 感染を防ぐために、人から遠ざかる、人を遠ざける。やむないとは言え、つらく悲しいことでもありますね。
- このことが、理不尽に暴発する形になるのが、偏見・差別・**社会的スティグマ**です。



# スティグマとは？

- **スティグマ (stigma)** とは…

「ギリシャ語で、奴隷や犯罪者の身体に刻印された「しるし」を意味する。その後キリスト教文化においては、十字架上のキリストの身体の傷と同じ聖痕を意味した。現代では、身体上の障害や、性格上の際立って目立つ個人の特徴、人種・民族・宗教などの集団的特性など、他と異なっているがために望ましくないと思なされる印のことを意味して使われている。」（『Health Literacy 健康を決める力』 Webサイトより）

<https://www.healthliteracy.jp/yougo/index.html>

- つまり、**社会的スティグマ**とは、差別や偏見の対象となる不名誉の印ということです。



# なぜスティグマが生まれるの？

- 人間には、未知のもの・目に見えないものに対する恐怖が高まると、それをだれか「他者」のせいにしたくなる、というところがあります。
- そして、その気持ちを、異質なものや少数のものに、無根拠に押し付け、それらを差別し排除することで、自分を守ろうとする衝動が生まれます。
- そこから、誤った有害な固定観念（偏見・**社会的スティグマ**）が生み出されやすくなります。それに支配されて行動してしまうと（差別）、たちまち私たちは不幸せになり、住みにくい社会になってしまいます。



# なぜいけないの？



- **社会的スティグマ**は、人の心を傷つけます。また、人に社会的不利益を与えます。**社会的スティグマ**を平気で人に付ける人は、軽蔑されます。偏見や差別も同様です。
- たとえば、差別や**社会的スティグマ**が猛威を振るう社会では、  
「コロナと思われるから、体調不良と言えない。」  
「コロナと分かったら差別されるので、病院に行かない。」  
といった気持ちになるかもしれません。もしも人々がそのような気持ちから体調不良を隠したり、病院受診をやめたりすると、本人の健康が脅かされるだけでなく、感染の早期発見対応ができずに、社会的に疫病蔓延がいつまでも続く、ということになりかねません。それでは困りますね。



# コロナに関するスティグマの例

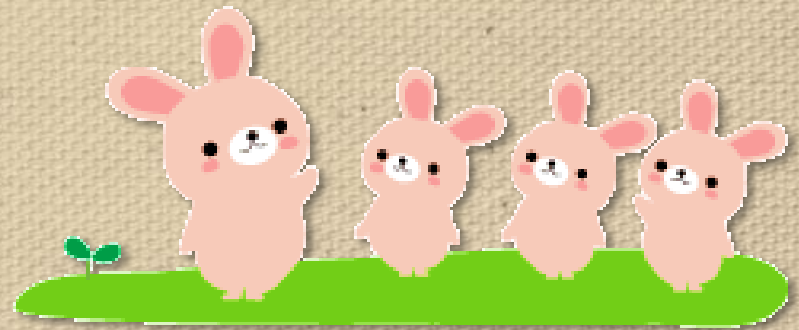
- 新型コロナウイルス感染症に関しては、たとえば、「中国ウイルス」、「アジア肺炎」などの言葉を用いる、感染者やその周囲の人たちを「コロナ」と呼んでからかう、そして、対象となる人を忌避する、などといったことが報道されていますが、それらはいずれも、間違った認識・行為です。
- 感染者・濃厚接触者、医療従事者等に対する誤解や偏見に基づく差別を行うことは許されません。





# 悪い芽を摘み取りつづける

- 人間の心には、差別や**社会的スティグマ**を生み出すような傾向があるということを知り、それに押し流されないように、私たち一人一人が、気を付けていくことが大切です。差別の芽、**社会的スティグマ**の芽は、根気よく摘み取り続けていく必要があるのです。





# 正しく対処できます

- ウイルスは、差別をせず、誰のことも特別扱いしません。ゆえに、私たちの誰もが等しくウイルスに感染しえます。もしも感染したり、発症したり、濃厚接触者になったりしても、「正しい対処をすれば大丈夫」、と冷静に思えることが大事です。

◎ 正しい対処：『大学における新型コロナウイルス感染症の扱い』

(京女ポータルのリンク集の中にあります)

[https://kyotowu-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/kwuinfo\\_kyoto-wu\\_ac\\_jp/EaHQGKVIFJ9BtSb-GDdgyo0BjaIjbec2Yo\\_UJfL-816G5w?e=DhHfEK](https://kyotowu-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/kwuinfo_kyoto-wu_ac_jp/EaHQGKVIFJ9BtSb-GDdgyo0BjaIjbec2Yo_UJfL-816G5w?e=DhHfEK)





# 素直にSOSを出せる社会であるために

- 病気にまつわる苦労を、みんなでちょっとずつ分け合うことができれば、一人一人が負う苦労を、小さくすることができます。そうなれば、素直にSOSを出しやすい、住みよい社会になります。それは、一人一人の、絶え間ない、ちょっとずつの努力をつなげ合うことで、作っていけるものです。その心は、次のような言葉にも宿ります。

「どうかお大事にね」 「きっと良くなって戻って来てね」

「待っているよ」 「大変だったね」 「また会えて嬉しいよ」

「お話きかせてね」





## <参考資料>

- 『COVID-19に関する社会的スティグマの防止と対応のガイド』  
Social Stigma associated with COVID-19 A guide to preventing and  
addressing social stigma. (国際赤十字連盟[IFRC],国連児童基金[UNICEF],  
世界保健機関[WHO] 合同, 2020年2月24日改訂版) [https://www.unicef.or.jp/jcu-cms/media-contents/2020/04/Social-stigma-associated-with-the-coronavirus-disease-2019\\_COVID-19\\_JP.pdf](https://www.unicef.or.jp/jcu-cms/media-contents/2020/04/Social-stigma-associated-with-the-coronavirus-disease-2019_COVID-19_JP.pdf) (2020年11月閲覧)
- 『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とスティグマ』 前田正治  
一般社団法人日本トラウマティック・ストレス学会Webサイト  
<https://www.jstss.org/ptsd/covid-19/page03.html> (2020年11月閲覧)

